

# 中文図書目録のデータベース化における一つの問題

## —目録規則作成作業の中で考えたこと—

和 泉 新 (図書館情報大学)

Izumi Arata

1. 中文図書には、内容からすれば、新書も古典もあるし、形態からすれば、現代装丁の図書も旧装丁の図書もある。貴重書もあれば一般書もある。これらを包括して、目録のデータベースを作成することが、今日の緊急の課題である。

そのためには、まず目録規則を作成し、次に人力のためのフォーマットを用意しなければならない。日本には日本目録規則 (NCR) があるものの、中文図書の整理には極めて不十分だからである。そこで、中文図書のための目録規則作成の作業に入ったが、これがなかなか難しく、すでにフォーマットが作成されたというのに、規則の方はまだ完成していないのが実状である。

2. 目録規則作成作業にあたっては、2つの点を留意した。第1は、図書は内容で分けるべきであって、形態や出版地、出版年で分けるべきではないということ。図書館の中で便宜的に図書をさまざまに区分するのはよい。だが、ふつう利用者は図書の内容を見たいのであって、目録が利用者のためにある以上、目録規則はこの原則に基づくべきであると考えたのである。ちなみに日本目録規則も日本十進分類法 (NCR) も、たてまえから言えば、図書をこのように扱っている。しかし、押し寄せる国際標準化の波の中で、漸次、現代の新書にウェイトを置く目録規則に変化した。

第2は、図書館の司書なら、誰でも使えるわかりやすい規則にしなければならないということ。それは、日本目録規則に準拠することを意味する。従来、日本においては、利用者の満足する目録は研究者でなければ作成できないとされてきた。中文図書が特殊な図書と見做されてきた所以である。今後、全国の図書館で入力することを考えれば司書が容易には扱えない目録規則を作成しても意味がないからである。

3. 作業の最初から2点は鋭く対立したが、どうしても2点の折合いがつかぬ場合には、第2点をより重視する方向で作業を進めてきた。ところが、司書にわかりやすい目録規則になればなるほど、図書の実態から遠ざかるかもしれないという新たな問題が生じたのである。

日本に輸入される中文図書の特徴の一つに現代装丁の影印本が多いことが挙げられるが、いま次に挙げる図書が図書館に入ったとして、実際入っているのが、司書はどのように目録をとるであろうか。現代装丁の図書であるから、一般書として整理していることは疑いをいれない (別表1参照)。

4. もちろん、司書は参考書を駆使して、整理にあたるはずであるが、何よりも目録規則にしばられるから、日本目録規則に基づいて、1または2の記入を行う筈である。これならば、目録の標準化はできる。しかし、図書の実態からは遥かに遠い目録で、利用者は著しくとまどうであろう。だからといって、5の記入法を規則に取り入れたならば、目録のデータベース化はおぼつかないであろう。では、何のための目録規則であり、目録のデータベース化であるか。この悩みが作業を遅らせている理由であった。ところで目録の外を見た場合、たとえば通産省主導のJIS漢字ひとつ取っても明らかであるが、あらゆる標準化は、このような問題を残して進んできたように思える。
5. 結論として、データベース化のための、利用者を百パーセント満足させる目録規則作成は不可能に近いということである。目録のデータベース化をめざすならば、標準化を第一と考えるべきである。しかし、目録は利用者のためにあるのだから、集中したデータに検討を加え、過去に蓄積された未入力の日々のデータとの整合性を持たせるための努力が別途に払われなければならない。それは、目録のデータベース化を進める主体とは別の研究者やハイレベルの司書を中心とする組織でなければならないであろう。このことは中国を除く各国に共通する課題であると考える。

### 別表 1

#### 記入例

- 1 南詞新譜上下 詞隱先生編著 鞠通生重定  
北京市中国書店、1985 2冊 18.4cm
- 2 南詞新譜上下 詞隱先生編著 鞠通生重定  
北京市中国書店、1985 影印 2冊  
原本：明嘉靖（1522-1566）刻本
- 3 a 廣輯詞隱先生增定南九宮詞譜26卷 明・沈璟（詞隱先生。1553-1610）撰  
清・沈自晋（鞠通生。1583-1665）重定  
北京市中国書店、1985 影印 2冊  
原本：清順治十二年乙未（1655）吳江沈氏不殊堂刻本
- 3 b 廣輯詞隱先生增定南九宮詞譜26卷 明・沈璟（詞隱先生。1553-1610）撰  
明・沈自晋（鞠通生。1583-1665）重定  
1985年北京市中国書店用順治十二年乙未（1655）吳江沈氏不殊堂刻本影印 2冊
- 4 a 廣輯詞隱先生南九宮十三調詞譜26卷 明・沈璟（詞隱先生。1553-1610）撰  
明・沈自晋（鞠通生。1583-1665）重定  
北京、北京市中国書店、1985 影印 2冊  
原本：清順治十二年乙未（1655）吳江沈氏不殊堂刻本
- 4 b 廣輯詞隱先生南九宮十三調詞譜26卷 明・沈璟（詞隱先生。1553-1610）撰  
明・沈自晋（鞠通生。1583-1665）重定  
1985年北京市中国書店用順治十二年乙未（1655）吳江沈氏不殊堂刻本影印 2冊

5 a 廣輯詞隱先生南九宮十三調詞譜26卷卽南詞新譜

明・沈璟（詞隱先生。1553-1610）撰 明・沈自晋（鞠通生。1583-1665）重定  
北京、北京市中国書店、1985 影印 2冊  
原本：清順治十二年乙未（1655）吳江沈氏不殊堂刻本

5 b 廣輯詞隱先生南九宮十三調詞譜26卷卽南詞新譜

明・沈璟（詞隱先生。1553-1610）撰 明・沈自晋（鞠通生。1583-1665）重定  
1985年北京市中国書店用順治十二年乙未（1655）吳江沈氏不殊堂刻本影印 2冊

## 東アジアの書誌データベースと ISO 10646 UCS

宮澤 彰 (学術情報センター)  
MIYAZAWA Akira

### 1. 10646 UCS

1993年5月に新しい国際標準文字コードである ISO-IEC 10646が出版された。Universal Multiple-Octet Coded Character Set、略名を UCS という。この文字コードは約3万の文字を含んだ巨大な文字表で、754ページにも及んでいる。この文字コードはこれまでの、JIS コードや GB コードのような各国語用のものではなく、国際的にこの文字コードだけで（一般的な）すべての言語が表記できることをめざしているものである。当然、書誌データベースの国際流通、あるいは国際的なネットワークに及ぼす影響は大きいものとなることが予想される。ここでは、この文字コードについて若干の紹介を行い、東アジア書誌データベースの国際流通におよぼす影響を考察する。

#### 1.1 これまでの文字コード

たとえば日本ではほとんどのコンピュータがいわゆる JIS コード、JIS X 0201および JIS X 0208を使用している。一方、たとえば中国では JIS のかわりに GB コードが、また韓国では KS コードなどが使われてきたわけで、どの国も国内的な交換と処理に関する限り、各国文字コードにより（それぞれ、外字や、非標準の文字コードといった問題をかかえながら）コンピュータ処理を発達させてきた。

ところが、この状況はいったん国際的な交換をしようと思うと大きな問題となってしまう。KS コードで記録された韓国・朝鮮語の書誌データや、文書を日本で受け取って処理しようと思っても、JIS コードの中にはハングルが存在しない。中国語を GB コードで記録した場合、よほど運が良ければ JIS コードにある漢字だけで表せるかもしれないが、一般には変換できない漢字が多すぎてそのまま処理することは難しい。もちろん、欧米のコンピュータでこういった東アジアの言語データを処理することは、特殊な環境を用意しなければできなかった。